

ぶんがくさんぽ おおよど文学散歩



2011年3月
奈良県吉野郡大淀町教育委員会

楽しんでくれたかの？



文学のまち・おおよどを

だいがくさん
© 2011 copyrights.M.W.

【お問い合わせ先】
〒638-8501
奈良県吉野郡大淀町榎本2090番地
大淀町教育委員会事務局 生涯学習課
Tel: 0747-52-1522 Fax: 0747-52-5507
大淀町役場HP (URL: <http://www.town.oyodo.nara.jp>)

おおよどゆかりの歌碑めぐりへ

『万葉集』や『日本書紀』といった日本を代表する古典作品のなかには、大淀町付近の地名や風景が登場します。ここでは、これらの歌にちなんだ歌碑のたつ記紀・万葉スポット（5ヶ所）を紹介しながら、みなさんを文学のまち・おおよどへと誘います。

【今城（いまぎ）】

大淀町今水は古くから、古典にいう「今城」の地とされてきました。
『日本書紀』は、「今城」谷の丘の上に、**建皇子**（649-658）のなまがらをおさめたと記します。
建皇子は生まれつき声が出せず、8歳で幼くして亡くなったと伝えられています。建皇子を寵愛した女帝「**孝明天皇**（594-661）」はその晩年、自らの墓に建皇子を合葬してほしいと願い、建皇子を失った悲しみを歌に残したと伝えます。今水には、建皇子のなまがらを安置した塚と伝えられる**徳久良寺**や、「新撰撰本万葉集」に採られたとする**坂谷藤原皇子**（雄略天皇の兄）の墓があります。次の2つの歌は、権現堂山門前の歌碑に刻まれています（地図A-1・2）。

◆**藤波の散らまく惜しみ 壟公馬今城の岳を鳴きて越ゆなり** 《作者未詳「万葉集」巻10-1944》

○歌意：新緑がまぶしい今城の丘を越えて、ホトギスがゆっくり飛んでゆくよ。これから散ってゆく、美しき波のようにゆれるフジの花が惜しいと鳴きながら、越えてゆくのだらうか。

◆**今城なる小むれが上に雲だにも著くし立たば何か嘆かむ** 《**齐明天皇御製**「日本書紀」齐明紀4年条》

○歌意：今城の谷の丘の上に、せめて雲だけでも、（しるし）としてのぼつてくれたらなら、憂する皇子・建を思い出して、こんなふうには嘆いたりはないのに。

【阿太峯（あだみね）】

阿太峯は、大淀町佐名佐と五條市にまたがる**大阿太高原**のこととされています。次の歌は、大淀町福神の花吉野ガーデンヒルズに伝近、阿太峯神社境内の歌碑に刻まれています（地図B-1）。

◆**真葛原なびく秋風吹くごとに阿太の大野の芽子の花散る** 《作者未詳「万葉集」巻10-2096》

○歌意：この葛原（真葛原）になびく秋風、なんとつれなれことよ。風が吹くたびに、阿太の大野に咲きほこっている美しい萩の花が、寂しく散ってしまうのではないか。

大阿太高原（地図B-2：茗城・富剛山を望む）



佐名佐付近（地図C：手前「筆掛岩」地図⑥から西を望む）

【吉野川の川漁（かわりょう）】

藤（魚をとる仕掛け）を使った川漁は、大淀町佐名佐から五條市の吉野川沿いにはるる阿太の地で盛んにおこなわれていました（地図C）。大淀町からはすこし外れますが、五條市阿太の集落内には、歌人・前川佐赤雄さん揮毫の歌碑があり、次の歌が刻まれています。

◆**安太人の八名うも度す瀬を速み意は念へど直に相はぬかも** 《作者未詳「万葉集」巻11-2699》

○歌意：安（阿）太の人々が、吉野川の瀬に藤を渡しているよ。その瀬のなんと激しく、そしてうらめしいことだらう。心に想っていても、あの瀬のように流れが激しくては、すぐあなたに逢いにゆけないのだから。

【大川淀（おおかわよど）】

吉野川が大きく蛇行して流れる、大淀町下羽の鈴ヶ森付近は、「万葉集」に記す大川淀の傍地とされています。万葉学者・大巻孝さん揮毫の歌碑が、行者堂前にたっています（地図D）。

◆**今しくば見のやと念ひしみ吉野の大川淀を今日見つるかも** 《作者未詳「万葉集」巻7-1103》

○歌意：今まで見たいと願っていた、しかし当分見ることはできないとあきらめていた、あの吉野の大川淀のたゆうら流れを、今日ようやく見ることができたよ。

【六田の淀（むつだのよど）】

次の2つの歌の風景は、大淀町北六田にある「柳の渡し（六田の渡し）」の辺りを詠んだものとされています（地図E）。現地にはたつ柳の渡しの解説板にも同じ歌が記されています。

◆**音に聞き目にはまだ見え吉野川六田の淀を今日見つるかも** 《作者未詳「万葉集」巻7-1105》

○歌意：すばらしいところだと聞いていたが、まだ見ることもかなわずにいた、あの吉野川の六田の淀を、今日ようやく見ることができたよ。

◆**かばづ鳴く六田の河の川楊のねもころ見れど飽かぬ河かも** 《作者未詳「万葉集」巻9-1723》

○歌意：鶯籠（カスル）が鳴く吉野の六田の河べりに、川楊（ネコマナギ）がゆらゆらとゆれているよ。どれほどねんごろに見ていても、飽きることがない河だなあ。



歌碑と今木谷の丘を望む（地図A-2）



歌碑（地図A-1）



歌碑（地図B-1）



吉野川を望む
手前は歌碑（地図D）



約100年前の柳の渡し付近
（地図E）から吉野方面を望む
（成瀬園直氏 提供）

おおよど文学散歩の1
ゆかりの歌碑めぐり地図
（★印が記紀・万葉スポットです。○番号は裏面に対応しています）
※この地図は大淀町内のみを示しています。地図にない町外の徒歩の駅、道路事情等については、町生涯学習課までお問い合わせ下さい。

